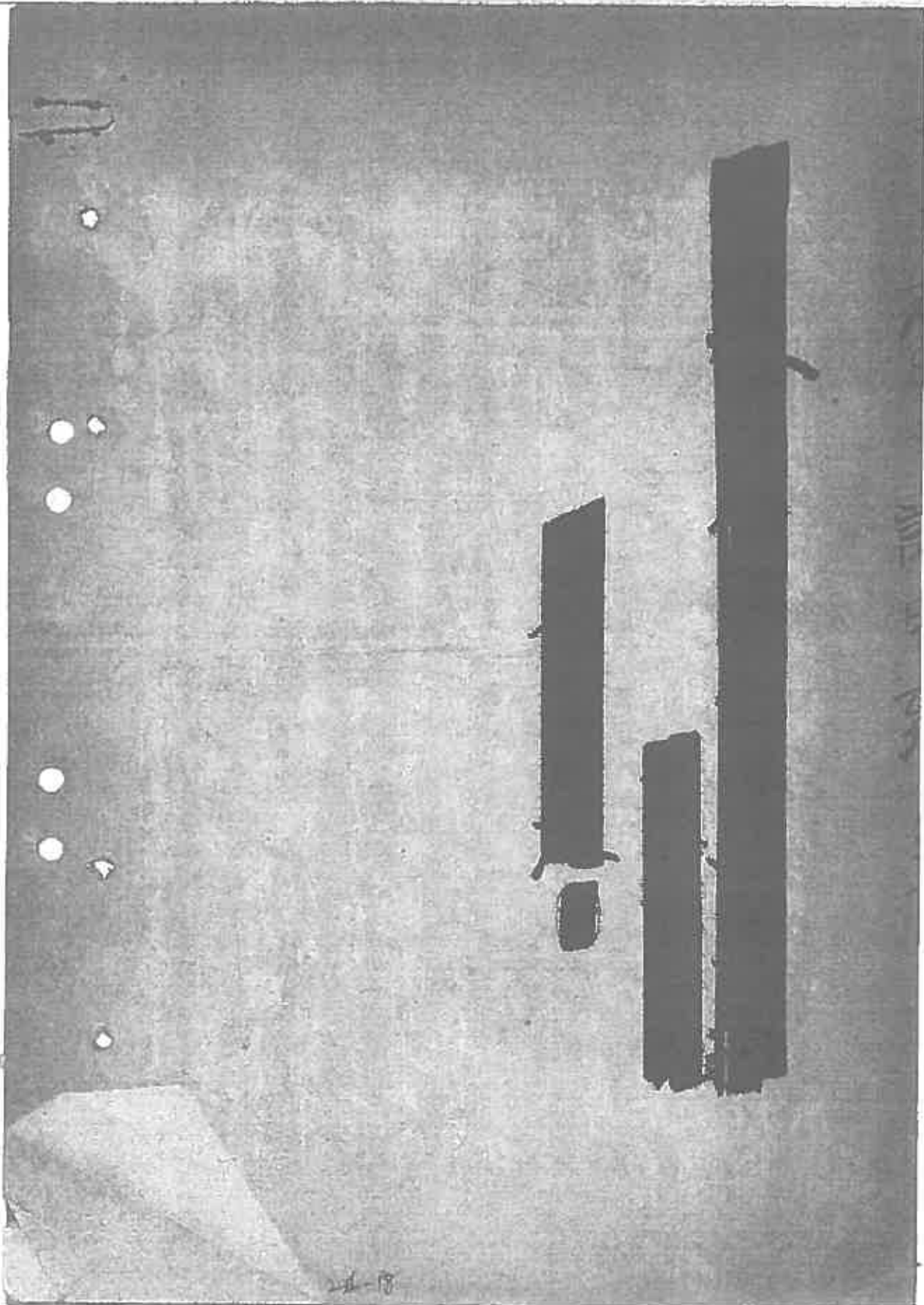


本名
蘇名

236-12

昭和拾九年七月中頃南面より昨南吹
海軍航空隊左朝十時頃發(パナシ)江
能行機部面を返るなる指込の自動車
で(パナシ)に行任務を終り基地に帰る途中
まゝの南で能行機部面を返るなる指込の自動車
居たが其のエンジンが(カクカク)と鳴るめ自動車
の(エンジン)し重の部面の下敷と成り物を
打ち(あばら)がなれ白粉車に
■君をの毛
病院につれて行きたまふたが二三十分の後
に



24-18

6462

44888

死 没 者 調 査

本 籍 地	現 任 所	所 屬 部 隊	入 國 年 月	官 等 級	内 地 港 灣 出 發 年 月 日	外 地 到 着 年 月 日	船 名 / 機 要	發 病 症 候 (年 月 日)	病 名 (受 傷 部 位)	發 病 (受 傷) 又 入 院 時 代
第 三 大 号 海 防 艦 隊	第 三 大 号 海 防 艦 隊	第 三 大 号 海 防 艦 隊	昭和 十 年 有 月 有 日	海 軍 少 佐	昭和 十 年 有 月 有 日	昭和 十 年 有 月 有 日	三 大 海 防 艦 隊 中 員 長 官 機 要	昭和 十 年 有 月 有 日	三 大 海 防 艦 隊 中 員 長 官 機 要	昭和 十 年 有 月 有 日
				氏 名	生 年 月 日	入 國 年 月 日				
				役 職						
				兵 種						
				水 兵						

死亡年月日時期及場所

昭和三年八月二日午後三時頃 秋田縣沖

右 申 告

昭和三年 七月 九 日

氏 名	所 屬 部 隊	現 住 所	本 籍 地
第 三 大 隊 防 衛 隊 隊 員 等 級 第 三 大 隊 防 衛 隊 隊 員 等 級	第 三 大 隊 防 衛 隊 隊 員 等 級		
入 隊 番 號			

附 考

- (一) 本陣番ハ係隊長又ハ發務取扱者等ニ於テ吳地方後員局人事部長宛通報シ非スト認ムルモノノミニ付記載ス
- (二) 吳鎮在番ノ特務士官、准士官、下士官、兵ニ付記載ス
- (三) 同府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (四) 他府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (五) 因他府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (六) 因他府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (七) 因他府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (八) 因他府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (九) 因他府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (十) 因他府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス

吳市

吳地方後員局人事部長宛

6468

200

6467

死亡年月日
 死亡場所
 朝鮮海峡
 戦死

右の通り承知し、おろすかとも申す致し、
 昭和二年 月 日

氏名	階級	所属部隊
不詳	一等兵	元山特別根據地隊附方一五二重砲隊特務隊乗組員
不詳	不詳	不詳
不詳	不詳	不詳
不詳	不詳	不詳

備考

一本調査は死後者。元山南係一部と處理す。元山から
 慎重に且。詳細に記入し、元山から
 一人から聞き、元山から聞き、元山から聞き、元山から聞き

昭和二年 月 日

607

6470

68 度

戦死番号
5808

死没者調書

卒籍地	現住所	所属部隊	入團年月日	等級	年	外	勤務	備考
	石同	山口縣 岩國海軍航空隊	昭和十九年五月一日	飛長	内地勤務		飛行場分隊員として、五月一日飛行場にて、整備中、飛行機に衝突、死亡した。遺体は発見されず、埋葬された。	昭和十九年八月七日
								足部 重傷
								八月七日午後十時、重傷に陥り、翌日死亡した。遺体は発見されず、埋葬された。

昭和二十年八月十九日午後三時

先之時の状況 入院加療中 死

右の通り 永無しと認む 中 告 致しませ

昭和二十年八月三十日

中 入籍番号 [redacted] 署長 氏名 [redacted]

告 者 籍地 [redacted]

現在所 石岡

所属部隊 山口縣 岩國 海軍航隊

備考

一 本報告に死者の身と肉離一 却て起程する元凶とみえらう 慎重に照つ 詳細記入して下さい

本場人から聞くと未だ死した事はない 也 然るにこのへき 必死 料は 皆未だ 餘日に 記入して下さう

姓名	佐世保	職名	防疫班員
出生年月日	昭和十一年十月十日	出身地	佐世保市
入隊年月日	昭和十一年十月十日	入隊場所	佐世保市
勤務地	佐世保市	勤務内容	防疫班員
備考	防疫班員	備考	防疫班員

[illegible]

研究

- 一 本調書に死後葬り事上関係一切と處置するものがあるが慎重
 と且詳細に記入して下す
 二 他人から聞いて承知した事項は其の旨を尾余自ら記入して下す

確認書

一本籍地

一戦死者所属等級氏名

商船光丸和丸警戒隊長海軍上等兵曹

一戦死場所及亡年月日

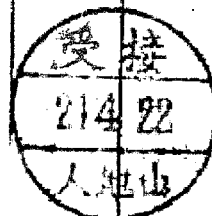
北緯三四度二分五厘東經一五〇度二分(山口縣角島燈台西方五哩)

昭和二十年八月七日

一戦死状況

昭和二十年八月七日二時一五分山口縣安藝警報
發令下一五時〇〇分第七村泰丸ト共ニ小島出港二隻
船團ニテ朝鮮釜山向航中一六時五〇分大型
機二機(PB4Y)ヲ發見一六時四〇分ト交戦
中爆彈、彈片ニタリ左腕切断、機銃ヲ胸部
貫通銃創ヲ受ケモナク戦艦指揮中一七時〇〇分
戦死ヲトゲラン

此体八國船十七時三〇分沈没ノ為沈下シ其ノ方不明
アリ、其ノ後掃海隊ニ打合セモ浮上セザル事明ラカリ



右確認入

昭和二十一年四月十日

元光部事務次席

海軍水兵長

同隊員

海軍水兵長

同隊員

海軍上等水兵

山形地方復興人事部御中



上海地方復員人事部

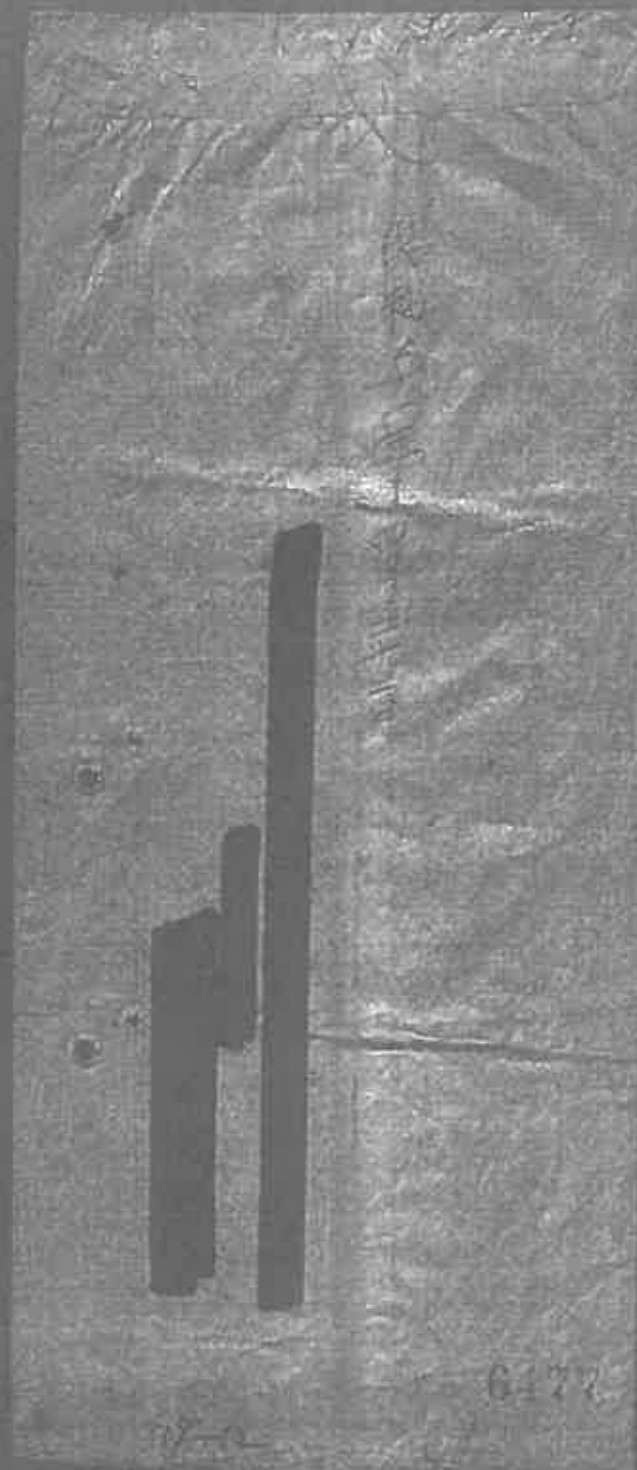
市考登町

雜誌書在

速送

6476

11-11



別紙 一?
 方九南隆丸元致言或存長海軍 等兵費



昭和三年八月七日午一時十分 朝鮮臣商官附遊ニテ
 概ね不明約ニ概ト一時周ニ渡リ交戦シ「昭」青島等由地ニ向テ
 戦傷中ニ爆撃機ノ一機 要波せん人々 在ルハ概ね
 片々貫通同明ニシテ重傷トナリ以後海中ニ墜落ス
 此片片求助ニ 助ケテ鎮海ニ軍病院ニ入院片々切斷
 三日後十日ニ死亡ス

右ノ様 調査出来ニテ哀悼ノ意ヲ表シマス

六月三日

世話部馬中

元
有限友部
教員
海軍上尉
吳曹



189-10